

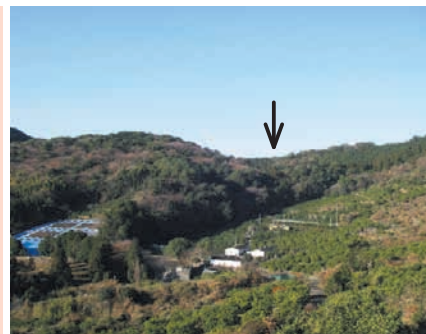
池辺寺リポート

第4号
平成26年1月発行

金子塔の解説文を訂正

百塚地区から約500m離れた山中に、金子塔と呼ばれる高さ2mの石碑（熊本市指定文化財）が建っています。建武4年（1337）の石碑で、池辺寺の由来を記しています。江戸時代から何度も解説が試みられていましたが、昭和33年に熊本大学の松本雅明先生による文案が定説となっていました。

このたび3D撮影・拓影などを基に図化作業を行なった結果、いくつかの誤りが見つかったため、複数の専門家によって再検討し、以下のように文案を訂正しました。



金子塔所在地の遠景
（北東から）

これまでの解説文

（左側面）

天台別院肥後国池邊寺側号百塔者當寺根本御座所本尊正觀音靈像也爰如傳記者

元明天皇御願和銅年中草創建立者國司綱家字

（北面）

金子願望寺也依佛像並百塔菩薩之化現不知造形之年而貞元々年正月七日焼失畢依之僧徒悲泣或愁之処自虛寶幡俄飛來堂上翻翻留梶木上僧徒禮之処佛像放光

（右側面）

而梶枝御坐依之奉移御在所於當寺邊三百余年乎自爾以爰三寶常住之砌萬行成就之地也仍為傳靈

法於末代奉建立一基塔婆之趣敬白

（正面）

建武四年 丁卯月五日

勸進衆 願主大妙

※その後、熊本市教育委員会（大城康雄・網田龍生）では、右側面一行目を北面に移してこの釈文を報告書等で採用し、面の呼称を平成二二年に改めた（左側面→南面、北面→西面、右側面→北面、正面→東面）。

訂正後の解説文

（南面）

天台別院肥後国池邊寺側号百塔者當寺根本御座所本尊正觀音靈像也爰如傳記者

元明天皇御願和銅年中草創建立者國司綱家字

（西面）

金子願望寺也依佛像並百塔草木之化現不知造形之□而貞元々年正月七日焼失畢依之僧徒悲泣或愁之處自虛

寶幡俄飛來堂上翻翻留梶木上僧徒禮之處佛像分□

而梶枝御坐依之奉移御在所於當寺邊三百余年乎自

（北面）

爾以來三寶常住之砌萬行成就之地也仍為傳靈法於末代奉建立一基塔婆之旨趣敬白

（東面）

建武四年 丁卯月五日

勸進衆 願主大妙

□・・・欠損などにより判読不明の文字

【碑文の意味】

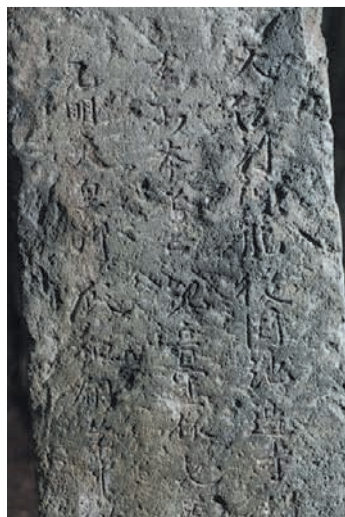
天台別院である肥後国池辺寺のそばにある百塔は、寺の根本御座所であり、ご本尊は正觀音靈像である。伝えるところでは、元明天皇の御願によって和銅年間に建立され、肥後国司綱家（字名は金子）の願望した寺であったという。仏像や百塔は草木が姿をかえたもので、造形の□を知らないほどである。

貞元元年正月七日に焼失し、僧らが泣き悲しんでいたところ、空から宝幡が堂の上に飛来し、ひるがえって杉の木の上に止まった。僧らが宝幡を礼拝したところ、仏像が分□して杉の枝に現れた。そこで御在所を寺のそばに移し、三百余年という。以来、三宝常住・万行成就の地となった。

そこで靈法を末代に伝えるため、この石塔婆を建立し奉った。



金子塔 南から



南面碑文の拡大

◎平成25年の活動成果

【調査】

○百塚地区：図面作成作業、盛土による遺構保護作業

【講演・展示など】

- 展示中：金峰山少年自然の家にて池辺寺出土土器・瓦を展示
熊本市埋蔵文化財資料室にて土器・瓦・埴・石製品などを展示
- 講演・講話：6月5日 くまもと県民カレッジ熊本学Ⅰ
「蘇る伝説の古代寺「池辺寺」～古代肥後の国づくり」
- 8月17日 池上小校区2町内講演会
「谷尾崎の文化財ー谷隠軒跡・日吉神社を探るー」
- 9月10日 池辺寺観音祭講話「味生池はどこにあったか」
- 10月5日 月感上人祭講話「月感上人と味生池」
- 10月11日 池上小学校ドリームプロジェクト講話「池上と龍」
- 11月10日 熊本市埋蔵文化財資料室定期講座『西海道と肥後国』第8回「古代肥後国の託麻郡・飽田郡」
- 団体見学：7月2日 池上小学校5年生
- 研修：7月24日 池上小学校職員研修「味生池の位置と変遷」
- ウォーキングガイド：4月27日 歴史ウォーク「高橋町周辺」
- 地域行事展示：2月10日 池上小学校「味生祭」



熊本市立池上小学校5年生の見学会



歴史ウォーク 高橋町周辺



百塚地区出土の石製品

◎出土品の紹介④ 石製品

百塚地区の本堂跡の背後に広がる斜面には100基の石塔が並んでおり、金子塔碑文にある「百塔」と判断されます。石塔から崩れた石の中に凝灰岩（灰石）で作られた様々な形のものがあります。それらの石製品は石塔の上に積み上げられた部品で、塔としての証拠品でもあります。



龍のウロコ
(池辺寺跡財宝管理委員会所有)



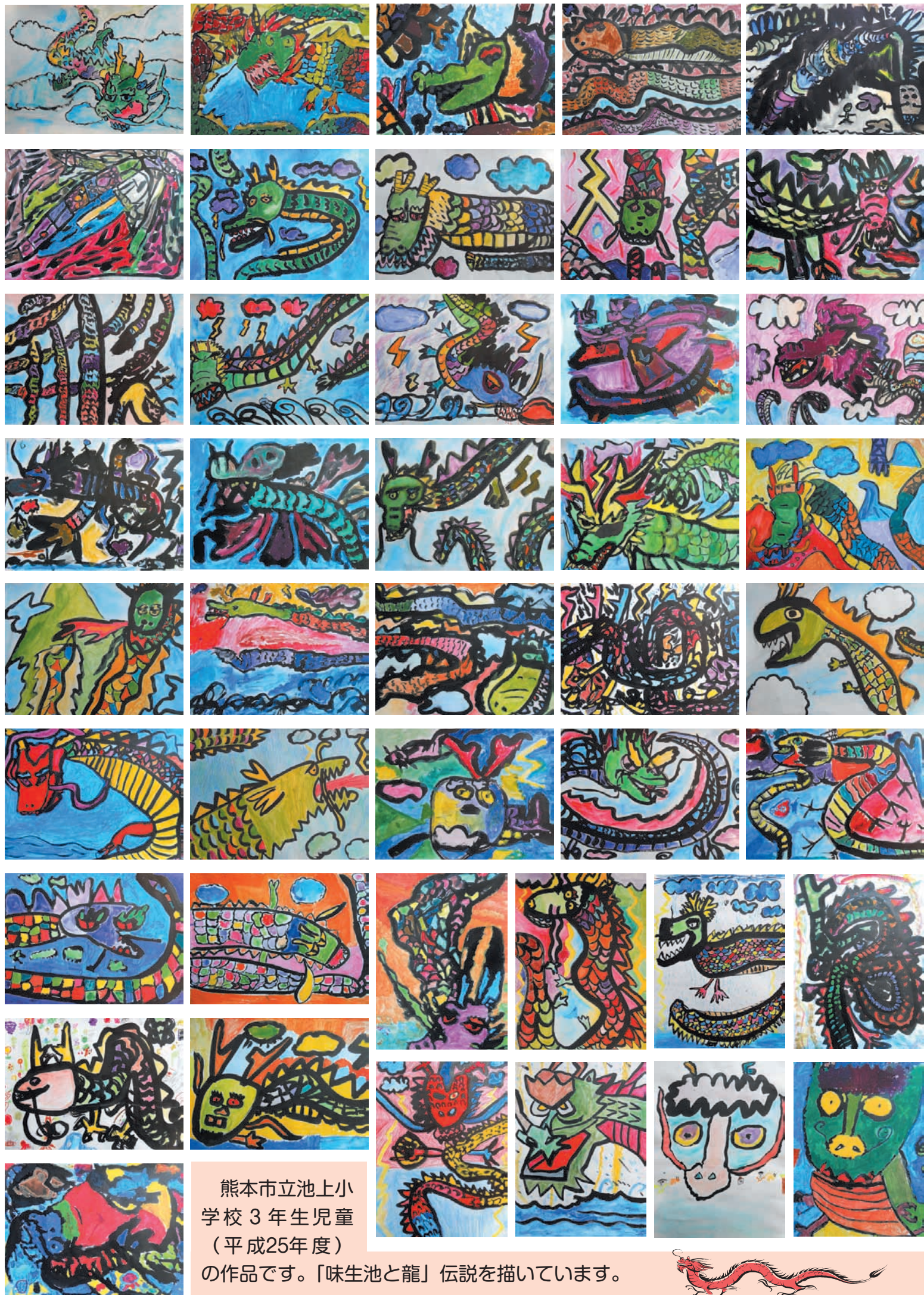
独鈷山の龍天石

◎宝物の紹介④ 龍のウロコ…市指定文化財

縁起によると、今から1300年前、味生池の龍は池辺寺の創建によって一度はおとなしくなりましたが、その200年後、再び姿を現し池辺寺の独鈷杵や金鈴を盗み出します。仙海和尚は不動明王の力によって龍の心を清め、ついに龍は独鈷山の大きな岩（龍天石）から天に上って行きました。龍は仙海に雨を降らせる秘法を授け、以来味生池は実り豊かな田んぼとなりました。その時に龍が落としたウロコが3枚、池辺寺に残されています。



池辺寺縁起絵巻（池辺寺跡財宝管理委員会所有）の第4話





金子塔の覆屋



雨受石の複製品作成



建物遺構東側の擁壁



石垣の複製展示



公園の階段を擁壁に



石垣の複製展示

◎百塚地区の保存整備工事

平成24年6月より始めました史跡池辺寺跡短期整備工事は、現在2年目を迎えています。平成25年は、金子塔の覆屋設置、西平山公園の設備工事、百塚域の舗装、本堂建物背後の石垣の遺構復元展示などを行なっています。

工事期間中は立ち入りできない箇所もありますので、見学時にはご注意ください。



百塚域の盛土・舗装

◎西環状道路建設地の発掘調査

平成24年度より県道「西環状道路」の遺跡発掘調査を熊本市が実施しています。今年度は馬場地区で、古代～中世（平安時代や室町時代）の遺跡を調査しています。

池辺寺に関連する遺跡だと考えています。

右写真にある石敷きの穴は墓でしょうか。3m強の長方形の穴に854個の石が敷いてありました。



馬場地区の発掘調査



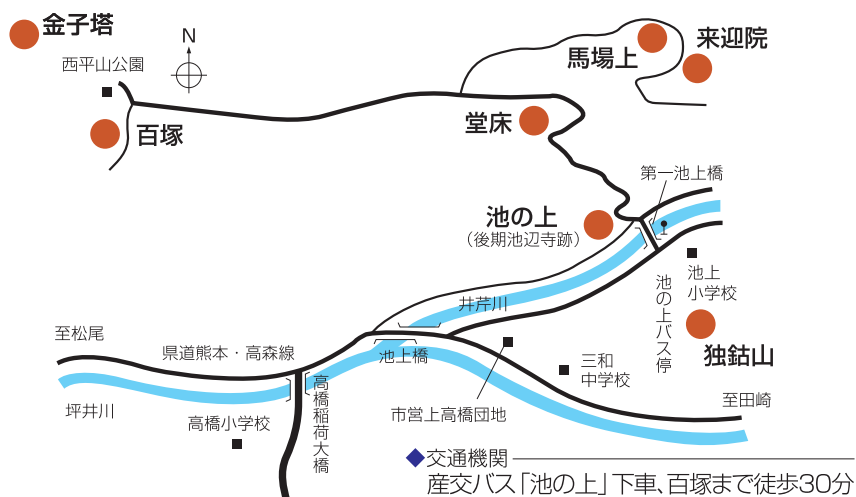
ナイスライ事業で発掘体験
(託麻中学校2年生)



石が敷き詰められた土壌(穴)



平安時代の土器が出土した土壌(穴)



お問い合わせ

熊本市役所文化振興課
埋蔵文化財調査室

電話

096-328-2740

メール

maizoubunkazai@city.kumamoto.lg.jp